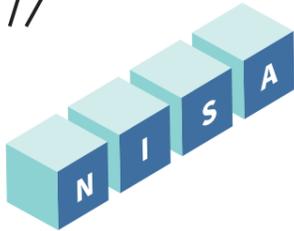


2024年1月 NISAが新しくなります！

- 非課税保有期間の無期限化
- 口座開設期間の恒久化
- つみたて投資枠と成長投資枠の併用が可能
- 年間投資枠の拡大 (つみたて投資枠：年間 120 万円、成長投資枠：年間 240 万円、合計最大年間 360 万円まで投資が可能)
- 非課税保有限度額は、全体で 1,800 万円 (成長投資枠は 1,200 万円。また、枠の再利用が可能)



旧 NISA の概要

	つみたて NISA 2018 年創設	← 選択制 →	一般 NISA 2014 年創設
年間投資枠	40 万円		120 万円
非課税保有期間	20 年間		5 年間
非課税保有限度額	800 万円		600 万円
口座開設期間	2023 年まで		2023 年まで
投資対象商品	長期の積立・分散投資に適した一定の投資信託		上場株式・投資信託等
対象年齢	18 歳以上		18 歳以上

新しい NISA の概要 (2024 年 1 月から適用)

2023 年末までに現行の一般 NISA 及び つみたて NISA 制度において投資した商品は、新しい制度の外枠で、旧制度における非課税措置を適用

	つみたて投資枠	併用可	成長投資枠
年間投資枠	120 万円		240 万円
非課税保有期間	無期限化		無期限化
非課税保有限度額 (総枠)	1,800 万円		
			1,200 万円 (内数)
口座開設期間	恒久化		恒久化
投資対象商品	長期の積立・分散投資に適した一定の投資信託		上場株式・投資信託等
対象年齢	18 歳以上		18 歳以上

解決の一助に

「老後 2000 万円問題」

特集

新 NISA を始めよう

人生 100 年時代に備えを

「一年の計は元日にあり」といわれます。日々の暮らしの潤いはなかなか生み出せず、国が新年 1 月から始める「新 NISA」に注目している方も多いことでしょう。制度はどう変わるのか。日本ファイナンシャル・プランナーズ協会佐賀支部長の木原真知子さん、副支部長の田中祐司さんに投資を始める際の基本的な考え方や注意点を聞いてみました。

なぜいま投資なのか

政

府は 2022 年 11 月、国民の資産形成を促進し、所得を増やすための政策「資産所得倍増プラン」を打ち出しました。その狙いは、国民の資産形成の流れを「貯蓄」から「投資」に変えていくことにあります。非課税投資枠の大幅な拡大と制度の恒久化を盛り込み、この 1 月にスタートする新 NISA は、その実現を後押しする具体策の一つです。

日本の「家計金融資産」は約 2000 兆円に上りますが、その半分以上は「現金・預金」というのが現状です。そのお金が株や投資信託などの投資に回り、企業価値が高まれば、投資した人の個人金融資産も増えるという経済の好循環をイメージしています。

5 年ほど前のことになりましたが、「老後 2000 万円問題」が注目を集めました。平均寿命が伸び、「人生 100 年時代」とも言われていますが、これは公的年金だけで標準的な生活を送ろうとすると、毎月約 5 万円が不足し、65 歳以降 30 年間生きるには約 2000 万円の資金が必要という試算が発端になりました。

お金の価値は、世の中がデフレなのかインフレなのかで大きく変わります。インフレなら、お金の価値が落ち、現金・預金の蓄えは実質的に目減りしていきます。いま物価高騰が続いていますが、その流れは当分変わりそうもなく、何らかの対策が必要です。

NISA は どのような 始まったのか

先

ほど話しましたが、日本の家計金融資産は、現金・預金に偏っています。その一方、世界中を見渡すと、米国や英国のように個人の投資が定着しているところがあります。こうした国では、投資を行う人のための非課税制度が早くから整備されています。

日本もそうした国にならない、貯蓄から投資への流れを生み出したいと、2014 年に「一般 NISA」を始めました。さらに 2018 年からは、特に少額からの長期・積立・分散投資を支援するための「つみたて NISA」をスタート。ちなみに NISA は英国の制度 ISA がモデルです。日本 (Nippon) 版の ISA だから NISA です。

日本では、株式や投資信託などへの投資で得た譲渡益や配当金に対して原則 20% の税金がかかりますが、これまで一般 NISA は 5 年間、つみたて NISA では 20 年間、非課税でした。国にすれば、ここの部分の税金は減りますが、経済の好循環が生まれれば、全体的な税収は上がっていくと考えています。



「投資をするときは長期、積立、分散の三原則を守ることが大切」と語る日本 F P 協会佐賀支部の木原真知子さんと田中祐司さん

新 NISA は どう変わるのか

これまでの流れや投資の基本を理解していただくため、少し前置きが長くなりました。いよいよ本題です。新 NISA は、これまでの NISA からどう変わるのか。一言で言えば、とても大きく変わります。

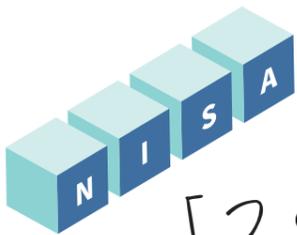
一番目の変更点は、毎年の投資の上限額が 360 万円にアップされていることです。これまで NISA では、毎年の投資の上限額について、一般 NISA が 120 万円、つみたて NISA が 40 万円と設定され、しかもそのどちらか一方しか選べない「選択制」になっていました。新 NISA の年間投資枠 360 万円の内訳は、「つみたて投資枠」が 120 万円、個別株などにも投資できる「成長投資枠」が 240 万円、その枠内であればどちらも同時に進められます。

さらに、投資で得た譲渡益や配当金に対する非課税保有期間についても、これまでの期限付きから無期限になっています。

なぜ、これほどまでに投資の限度額が上がり、非課税保有期間が無期限になったのか。ここにも国の考えが色濃く反映されています。先ほどお伝えした通り、家計金融資産 2000 兆円の大半は、若い世代でなく高齢者が保有しています。国はそれを投資に回してほしいと考えています。ただ、高齢者に「長期」「積立」と言っても、若い世代に比べれば時間がありません。新 NISA は、若者、ミドル、高齢者のすべての層をターゲットにしており、これまでより使い勝手がよくなった制度と言えます。



AさんのつみたてNISA口座のスマホ画面。
投資信託の評価額の動きなどを毎日チェックしている



「つみたてNISA」を始めた人に聞きました



〈投資をやったこなかった理由〉

「お父さん、投資はやるべきだよ」。2022年5月、50代の会社員Aさんは、東京から帰省した銀行勤めの息子にこうアドバイスされて「つみたてNISA」を始めました。以下、Aさんの投資記録です。あくまで「途中経過」であり、選択した商品の特性も大きく影響していますが、この1年半で評価損益率は約20%になっています。今回の新NISAで投資を始めることを検討されている方に一つの具体例として紹介します。

Aさんは長年、なぜ投資をやったこなかったのか。それは若い時の苦い経験があるからです。証券会社に勤める友人に勧められ、35年ほど前、株式累積投資「るいとう」をスタート。ゲーム会社の株を毎月1万円、5年間で60万円買ったところで単位株にし、約10年間保有していましたが、その会社が別の会社に経営統合され、投資額の約4分の1、約15万円の評価額のとくに手放しました。この経験があるため、日経平均株価が7000円近くまで落ちた後、上昇を始めても投資する気はまったくありませんでした。ただ、金融のプロを目指す息子のアドバイスだけに、やってみることにしました。

〈毎日ノートに評価額の変動を記入〉

投資商品に選んだのは、米国大型株で構成するS&P500指数に連動している投資信託です。つみたてNISAの年間投資枠は40万円だったので、上限ぎりぎりの毎月3万3333円の積立を2022年5月に始めました。投資に関してまっ

毎月約3万3千円の積立 1年半で評価損益率約20%に

AさんのつみたてNISAの
評価額などの推移
投資信託 eMAXIS SLim 米国株式 (S&P500)

	投入額(円)	評価額(円)	評価損益(円)	評価損益率(%)
(2022年) 5月	33,333	33,334	1	0
6月	66,666	68,447	1,781	2.67
7月	99,999	103,762	3,763	3.75
8月	133,332	142,193	8,861	6.64
9月	166,665	165,915	▲750	▲0.45
10月	199,998	211,269	11,271	5.63
11月	233,331	238,625	5,294	2.26
12月	266,664	255,882	▲10,782	▲4.04
(2023年) 1月	299,997	294,884	▲5,113	▲1.70
2月	333,330	338,334	5,004	1.49
3月	366,663	358,218	▲8,445	▲2.30
4月	399,996	417,373	17,377	4.34
5月	433,329	465,172	31,843	7.34
6月	466,662	537,633	70,971	15.20
7月	499,995	591,324	91,329	18.26
8月	533,328	620,868	87,540	16.41
9月	566,661	660,903	94,242	16.62
10月	599,994	685,631	85,637	14.26
11月	633,327	767,988	134,661	21.25
12月現在	633,327	762,441	129,114	20.38

※評価額、評価損益、評価損益率ともに概算

多くの素人なので、勉強すべきと考え、その投資信託の評価額などを毎日ノートに記入しています。こうすることで、経済ニュースへの関心が自然と高まり、日々の経済情勢を肌感覚で捉えるのに役立っています。基準価格が上がるとたくさん買えず、逆に下がるとたくさん買えることも実感しています。

〈積立開始時期が運用益に好影響〉
AさんがつみたてNISAを始めた2022年5月は、その前年に約20%上昇したS&P500が大きく下落したタイミングでした。その後の状況は表の通りですが、積立開始時期がよかったため、1年半が経過した現在の評価損益率はプラス約20%となっています。Aさんには「るいとう」の苦い経験があり、「出来過ぎの数字」と思っています。もちろん、ここで売却しようとは一切考えていません。投資における長期、積立、分散の三原則をしっかり守っていく考えです。

投資の3原則を知ろう

投

資における三原則は「長期(投資)」「積立(投資)」「分散(投資)」です。すでに投資を始めている方も多いと思います。個別株などに投資して「売った」「儲けた」「損した」といった感じでは、資産形成にはつながりません。それでは単なる投機、ギャンブルです。国がギャンブルの手助けをするのはおかしいですから、つみたてNISAには、長期、積立、分散の三原則がしっかり反映されています。投資できる対象商品は、金融庁が定めた長期の積立、分散投資に適した投資信託等です。将来の公的年金への不安が根強いからか、つみたてNISAに関しては、若者世代のほうが盛り上がりを見せています。



安定的な資産形成のポイント

- 投資を始めたら、**長期**で続けよう！
- 定期的にコツコツ**積立**しよう！
- 投資対象を**分散**しよう！

NISAを使えば、運用益は非課税!!



投資の注意点を再確認して

投

資を始めるにあたっては、注意すべき点があります。そもそも投資は家計管理ができていないという前提がなければ、やるべきではありません。家計管理ができていないのなら、それは投資でなく投機です。どれだけ投資にお金を回すことができるのか。収入と支出のバランスをチェックし、投資を始められる環境にあるかどうかを知ることが大切です。

若いみなさんについては、自分自身にも投資すべきです。資格を取得したり、旅行に行つて知見を広めたりすることで自分の価値が高まります。お金を稼ぐ力を上げていくことが、豊かな人生へとつながっていきます。

高齢者のみなさんは、若者世代よりお金を持つておられる方が多く、投資への注意がより必要です。株式、債券、不動産、金…。自分が購入しようとしている商品に何がどれだけ入っているのか。株式であれば、国内、海外でも違うので、商品特性を知ることが大切です。投資である以上、リスクがあります。過大なリスクを負わないようにしなければなりません。

投資に対する関心が高まり、投資サークル、投資セミナーなど活況ですが、そうした一方で投資詐欺に遭われる方も増えています。投資に悩んだ時は、一人で抱え込まず、まずはファイナンシャル・プランナーなど専門家に相談することをお勧めします。